鎮西学院だより「シャロン」

Sharon

2018. Vol.6

2018年度 学院目標聖句

「立って、真理を帯として腰に締め、
正義を胸当てとして着け、
平和の福音を告げる準備を履物としなさい。」

エフェソの信徒への手紙 6章 14－15節

「新しい胎動の始まる希望の鎮西学院・2018年」

2018年は、鎮西学院にとって全学院で新しい試みの胎動の聞こえる希望の年となる。

鎮西学院幼稚園は、4月から施設給付型幼稚園へ移行し大きく発展する。教師陣や園舎の充実が図られることになる。園児にとっても希望の年が始まる。

鎮西学院高等学校では、長年準備されてきたグローバル・イングリッシュ・コースがいよいよスタートする。カブリ英和学校から流れる英学の伝統が、遂に現代の高校システムの中で甦る。海外研修もカリキュラムに組まれており、鎮西学院高等学校に大輪の花を咲かせることが期待される。

長崎ウエスレヤン大学では、ウエスレヤン・ビッグバンド(ジャズバンド)とスポーツ(卓球・バレー)の集中的に強化を計る。既にビッグバンドは、高校生の間で評判になっており、県内の有力のジャズバンドへと成長することは確実である。また卓球部は、全国レベルに達している。都市型の大学に向うを張って芸術・スポーツで名を挙げて行きたいと全学が意欲満々である。

鎮西学院の国際化は、長崎ウエスレヤン大学だけでなく鎮西学院高校でもすすんでおり、大学・高校で海外留学生が増えてゆくことになる。

希望に膨らんだ2018年の目標聖句は、エフェソの信徒の手紙6章14節～15節とした。「立って、真理を帯として腰に締め、正義を胸当てとして着け、平和の福音を告げる準備を履物としなさい。」

まさに、希望の年には、学院全員が気を引き締め、この聖句のように希望の実現のために戦わなければならない時もある。鎮西学院は、真理と正義の福音のための戦いをしなければならない。

戦前に人見絹枝という伝説の陸上競技の女性アスリートがいた。アムステルダム・オリンピックの日本人最初のメダリストであった。世界記録を打ち立てたが、僅か24歳で病没した。彼女は、自分の人生を、「戦いの人生でした」と書いているが、その戦いに悔いはなかっただろう。

鎮西学院も希望の実現のためには、真理と正義と福音に基づいて悔いのない戦いをする姿勢を持ちたいと思う。(了)

鎮西学院　学院長　森　泰一郎

鎮西学院諫早市民クリスマスコンサート2017

今や諫早の冬の風物詩になりつつある鎮西学院諫早市民クリスマスコンサートが、12月９日（土）に盛大に挙行された。例年に倣い、一部は「礼拝」、二部は「祝会」の二部構成で行われた。一部の礼拝では、オール鎮西学院が参加し、吹奏楽部の演奏によるファンファーレに続き、一同で讃美歌158番を讃美した。総宗教主事の祈祷の後、大学生の聖書朗読と、高等学校コーラス部、本年創立された大学コーラス隊の讃美歌斉唱を交互に行いながら、御言葉と讃美のコントラストを楽しみ、その間に幼稚園児が舞台に立ち、クレッシュ（イエスの誕生の場面を、人形等を用いて表したもの）を再現。目で見るイエスのご降誕を演出した。園児の讃美の後、讃美歌112番を讃美、幼稚園児が祈祷を行い、吹奏楽部の演奏による後奏をもって一部は終了した。

二部「祝会」は、幼稚園児によるハンドベル演奏「荒野のはてに」と「クリスマスメドレー」の合唱が行われ、その愛らしさとひたむきさは会衆を魅了した。次に、大学のウエスレヤン・ジャズアンサンブルによる「赤鼻のトナカイ」「White Christmas」「サンタが町にやってくる」の３曲の演奏があり、ジャズのサウンドが会場に満ちあふれた。本学高校生２名の参加もあり、学院の目指す高大一貫教育の一翼を担った感がした。その後はゲスト出演となり、喜々津中学校吹奏楽部が「Explorations」「When You Wish Upon A Star」を、西諫早中学校吹奏楽部が「三つの花ことば」を演奏して下さった。どの音色も温かみがあり、クリスマスにふさわしいものであった。時間を割いてこの市民クリスマスに参加して下さった若人やその指導者に、心から感謝する次第である。最後は鎮西学院高校吹奏楽部の演奏が行われた。「ジュビリー序曲」「スペイン」の演奏の後に、高校卒業生のフルート演奏者　松尾優花さんが登場し、「フルートのためのラプソディ」を後輩達と共演し、クリスマスを盛り上げた。その後はクライマックスを迎え、吹奏楽部の演奏に合わせ、ヘンデル作曲の「メサイヤ」にある「ハレルヤコーラス」を一同で合唱した。グランドフィナーレとして鎮西学院の出演者が登壇し、「赤鼻のトナカイ」と「きよしこの夜」を合唱し、プログラムを閉じた。

今回も昨年に引き続き、司会に高校卒業生の芳野裕美さん、手話通訳者に大学卒業生の谷川尚美さんを迎え、鎮西学院諫早市民クリスマスコンサートを実施できたこともクリスマスの喜びの一つであろう。

最後になったが、喜々津中学校吹奏楽部の指揮をしておられる川野幸司先生は、本学の高校・大学の卒業生である。かつてご自身も本学吹奏楽部の一員として、このコンサートに参加されておられた。時を経て、今度は指導者としてこのステージに立たれた姿を見て、多くの者が感慨深げに聴き入っていた。この様な経験が出来るもの諫早市民クリスマスコンサートの醍醐味ではなかろうか。このような地域に根差した活動を学院が率先しておこなっていくことも、神様から与えられた使命であることを再認識したコンサートであった。

鎮西学院総宗教主事　鐵　口　宗　久

感謝と思いやりを

子どもは神様から預かった宝物。みんなで、大事に育てていきたい。

鎮西学院幼稚園 園長　**原田 裕子**

Profile｜鎮西学院幼稚園卒園、S61年（1986年）鎮西学院高等学校卒業。
S63年（1988年）長崎短期大学を卒業し、佐世保市の幼稚園に4年間勤務したのち、鎮西学院幼稚園へ。H18年（2006年）より保育主任となり、未就園児の親子教室など子育て支援活動も実施。2017年4月に現職に就任。

やさしい笑顔が素敵な原田園長は、
鎮西学院幼稚園、鎮西学院高等学校の出身です。
平成29（2017）年４月、鎮西学院の卒業生で
はじめて鎮西学院幼稚園の園長に就任。
今後の活躍に多くの期待が寄せられています。

伝えたい鎮西スピリッツ ナンバー1よりオンリー1

鎮西学院幼稚園が設立されたのは、昭和30（1955）年。今日まで62年の歴史を重ね、「あなたの若い日にあなたの造り主を覚えよ」という聖書のみことばと鎮西学院創立の精神が受け継がれてきました。

「私は、高校時代、特に取得のない生徒でしたが、チャペルのお話も楽しみだったんです。高校の時に当時の学院長先生が、小学校1年生の算数の問題を例にしてお話しくださったのですが、ブランコが4台あって子どもが6人いたらブランコに何人乗れるかという問題で、普通は4人というのが正解ですよね。でも、鎮西学院は、どうしたら6人みんながブランコに乗れるかを考えるような人を育てたいと話されて、すごく感動したんです」。

鎮西学院で今も伝えられている、ナンバー1教育ではなく、オンリー1教育ということですね。原田園長が教育者の道を選んだのは、周囲の影響もあったとか。

「父が中学校の教員だったというのもありますし、親戚にも教員が多いからでしょうか、小さい頃から、小学校の先生や幼稚園の先生になりたいと思っていました。オーソドックスですけれど、子どもが大好きなんですよ」。

好きな遊びに熱中する中で 生きる力を育んでいく

キリスト教教育に基づく鎮西学院幼稚園の保育目標は、どういったことでしょう。

「3つの保育の心というのがあります。キリスト教の教えの中で人を思いやる愛ある心を育てるということ。学院全体の緑豊かな自然の中でたくさん遊んで伸び伸びと育てるということ。そして、家庭的なあたたかい雰囲気の中でゆっくりと見守るということを大切にしています」。

最近は、習い事やスイミングなどを取り入れている幼稚園も多いとか。そうしたことを求めていらっしゃる保護者の方もいらっしゃるのでは。

「子どもたちには、自分の好きな遊びに熱中してどんどん発展させていくような集中力やチャレンジ精神、思考力などを養ってほしいと思っています。そうしたことが将来的に必ず役に立つ、目標ができた時に頑張る力に絶対につながると信じています。そして、コミュニケーション能力ですね。小さいながらも、自分の意見を伝える、人の意見に耳を傾け、折り合いをつけながら遊びを進めていく力、また、友だちとの交わりの中で自分の気持ちを整理する力など、そんな人間力の基礎が集団生活では大事だと思います。習い事、何々教室というようなことに時間を割くのはもったいないと思っていて、そうしたことに魅力を感じるのは解らないでもないですが、それは個人でもできることなんですよね。

クリスマスツリー点灯式の日

何かができるようになるというような目に見えることに心を奪われがちですが、目に見えない心の成長を見逃がさずそのことこそが大切なんだとしっかり認めてあげる教師でありたいですね。

周囲の人に気を配り、よい人間関係を築くことのできる子は、きっと周りの人に可愛がられ信頼され幸せな人生を送ることができると思うのです」。

豊かな自然環境の中で学べるのは理想的です。幼少期の自然体験はずっと記憶に残る、とても貴重なものです。

「自然の中には、子どもたちをとことん夢中にさせてくれるものがあふれています。うちは環境に恵まれているので、自然の中でいっぱい遊ばせて、子どもたちの興味や関心を育みたい。好奇心をどんどん広げていって探究心や思考力をいっぱい身に付けてほしいと思っています」。

アットホームな雰囲気の小規模園というのも特徴の一つですね。

「一人ひとりに目が届く。担任まかせにしないで、全職員で一人ひとりに目を配るということを大切にしています。小規模園なので、あたたかい雰囲気の中で子どもたち一人ひとりをゆっくり見守る環境が整っています。子どもは神様からの預かり物だなと強く思います。まさに宝物です。大事に育てないといけないと思っています」。

神を敬い人を愛して 今あることに感謝の心を

キリスト教教育ですから、子どもたちの一日はお祈りからはじまります。

「感謝と思いやりが、祈りの原点です。今あることへの感謝と他者への思いやり。今日も新しい一日を与えられて、元気で幼稚園に来られて、みんなに会えて幸せだね。みんなでお散歩に行けて楽しかったね、ありがとうございますみたいなことをいつも話しています。そんな毎日が続くわけですから、3年間すごした頃には感謝と思いやりの心はしっかり育くまれていると思います」。

ここで先生方の愛情を存分に受けて育った子どもたちに、どのような人になってほしいと思いますか。

「無い物ねだりすることなく今あることに感謝をして、人のために何ができるかということを考え世界平和を願うような人になって、逞しく生きていってほしいです。鎮西学院のモットーである「敬天愛人」、神を敬い人を愛する精神を忘れないで欲しいですね」。

中学3年生の男の子、受験生のお母さんでもある原田園長。自分と同じように息子さんにもぜひ鎮西学院高等学校に進んでほしい、素晴らしい体験をしてほしいと願っているそうです。

毎週行っている"絵本の読み語り"

青春へのエール

鎮西学院の頑張りは、生徒、学生、卒業生、教師、誰にとってもうれしいものです。鎮西学院の生徒や学生の活躍にスポットをあててご紹介します。

廣渡 隆馬さん
現代社会学部 経済政策学科 4年

諫早への熱い思いを胸に。大学で、地域で、さまざまな活動に全力投球。

長崎ウエスレヤン大学の現代社会学部経済政策学科は、経済政策と地域経営に関わる教育研究を通して、暮らしに密着した地域経済社会や住民参加型の地域づくりといった幅広い分野において、社会性の高い国内外の地域課題の解決に取り組むことのできる問題解決能力と総合的なコミュニケーション能力を有した実践的職業能力の高い人材を育成することを目的としています。

今回紹介する廣渡隆馬さんは、自らの強い意志でこの学科を選び、明確なビジョンを持って長崎ウエスレヤン大学に入学。将来の夢に向かってまっすぐに、有意義な大学生活をすごしてきました。

ずっと生まれ育った諫早で

諫早で会社を経営している家の長男として生まれた廣渡隆馬さんは、家族を愛し、諫早を愛する、好感度抜群のイケメン4年生です。幼い頃から、本業の他にも地域のボランティアやまちおこし活動などにも力を注いで、人とのふれあいを大切にするお父さんの姿を見ていて、お父さんのようになりたいと感じるようになったとか。四代目として家業を継いでずっと諫早で暮らし続けたいという思いがあったと言います。そのため、高校は地元の公立高校、大学は諫早の大学、長崎ウエスレヤン大学以外は考えられなかったそうです。しかも、地域の人と広く交流しながら学べるという魅力的な現代社会学部の経済政策学科。これこそが、諫早を愛し続けていきたいという廣渡さんにぴったりの学びの場に違いありません。「長崎はもちろん好きなんですが、生まれ育った諫早がとにかく大好きなんです。地元で人脈を広げたり、地域活動をしたりすることが将来役立つかなと思って、進路を決めました」と、さわやかな笑顔が印象的な廣渡さんです。

夢に向かってアクティブに

大学での勉強はもちろんいろいろな活動にも積極的に関わって、たくさんの人と知り合い、コミュニケーションを図り、多くのことを学んできた廣渡さん。諫早市の喜々津商店街で毎月第4日曜日に開催されている「たらみ市」には実行委員として参加して、企画やイベントも手掛けて奮闘中です。地域コミュニティの中で地域の人たちと親しくなって、地域の活性化や持続可能な地域づくりを実践的に学ぶという、貴重な経験を重ねています。大学祭では、司会を務めたり、ダンスパフォーマンスを披露したりして、会場を大いに盛り上げています。また、授業の一貫のスタディツアーで韓国を訪れ、韓国ならではのまちづくりや日本にはない地域の連携の強さにカルチャーショックを受けて帰ってきました。サークルは、テニスとバスケットボールに入っているというスポーツマンという一面も。アルバイトは、ホテルのバンケットスタッフや飲食店の接客など、コミュニケーション能力が鍛えられる仕事を選んで取り組んでいます。廣渡さんの活動のキーワードは、人。諫早への深い愛を誇りに思い、目標がはっきりしている廣渡さんの大学生活は、とてもアクティブで充実しています。

なごやかな雰囲気の「たらみ市」スタッフ

社会人デビューは銀行マン

「これからの厳しい時代に地方で会社を経営していくのはたいへんだ。将来的にどうなるかわからない。だから、跡は継がなくてもいい、自分の好きな道を選んでいい。そう、大学2年の時に父から言われたんです。」と、振り返る廣渡さん。子どもの将来を案じるお父さんの言葉に困惑したのだとか。「高校の頃から父の後を継ぐと決めていたので、途方に暮れたというか、悩みましたね」。そこで、サポートしてくれたのがゼミの先生でした。経営者になるとしても役立つし、生涯働き続けるとしてもやりがいのある銀行マンになってはどうかとアドバイスをしてくれたそうです。「先生の助言に従って、銀行への進路を決めました。他の大学では、こんなに親身になってはもらえないと友達から聞いたりもします」。先生との距離の近さも長崎ウエスレヤン大学の魅力の一つ。一人ひとりの気持ちに寄り添って、身近な存在として希望する将来へと導いてくれる、そんなつながりは他大学では考えられないようだと語る廣渡さん。大学時代に身に付けた多彩なスキルを活かしながら、若い力で諫早を盛り上げていって、諫早を支える人になってください。きっと、廣渡さんのような若者がいる諫早には、明るい未来が広がっています。

大学祭 MC の楽しいトークも好評!

バスケットの仲間とともに

鎮西学院幼稚園

本園の
最新情報をHPに
掲載しています。
鎮西学院幼稚園 検索

感謝〜支えられて〜

園長　原田　裕子

笑顔で歓声をあげながら園庭を走って遊ぶ子ども達に明日を生きるパワーを感じ、〝未来を担ってくれる宝物、大切にしなければ…〟と想いを強くします。

2学期はたくさんの行事がありました。その度ごとに**保護者の皆様の温かく力強いお支えを感じ、感謝の気持ちでいっぱい**になりました。

福沢諭吉先生のことばに「子どものしつけは口をもってせず、目をもってすべし。」とありますが、保護者の皆さんの温かいご協力を日々感じながら、豊かな人間関係の中で温かく育まれた子は、きっと神と人とを愛することのできる心豊かな人として大きくなってくれると確信しています。

〜運動会〜

晴天に恵まれ、神さまのお守りのもと、全園児が出席して行うことができました。

前日のテント張りでは高校の女子サッカー部の生徒さんが快く手伝ってくれました。

当日は、保護者の係の皆さんが本当によく動いてくださり、多少のハプニングにも即時に対応してくださいました。

保護者、卒園生、ご家族の皆さんに出ていただく競技にも積極的に参加し盛り上げてくださり、笑顔いっぱい、元気いっぱいの楽しい1日となりました。

〜ひかりの会主催　マジックショー〜

長崎在住マジシャン・ドゥーさんに来ていただき、マジックショーが行われました。

〝財布から炎が！〟〝スプーンがぐにゃり…〟〝帽子からハトが…〟次々と起こる不思議な現象に子ども達は引き込まれ、目を丸くして見ていました。

子ども向けのショーが終わり、大人向けのおまけが…。驚くほどの超能力的なマジックに鳥肌がたちました。

毎年、保護者会役員の方々が、子ども達が喜びそうな企画をし、準備を進めてくださり楽しい一日となっています。

そのほか、イベント企画委員さんを中心に準備を進めてくださった〝ワクワクチャレンジデー〟、〝ばあば先生のわらべ歌遊び〟、お母さま方の〝ヨガ教室〟など保護者会主催の楽しい企画がたくさんありました。

当園は、保護者の支えが大きく、さりげないサポートに助けられることが数々あり日々感謝の連続です。

これからも保護者の皆さんと共に手を取り合い、心を通わせて、子ども達の健やかな成長を見守っていきたいと思います。

お父さまお母さま方も同じ地域で子育てをしていく仲間として、良い関係を築き、親子で園生活を楽しんでくださることを願っています。

いちょうのはっぱ　いっぱーい！
（園庭にて）

おおきなおいも、でてくるかな
（芋畑にて）

どんぐり、みーつけた！

おそとでの おべんとう さいこう！
（寮前広場にて）

中国からのお客様をお迎えして

主任　荒木　智子

幼稚園では10月末に思いがけず、中国広東省の幼稚園の園長先生方17名をお招きする機会が与えられました。

これまで幼稚園に沢山のお客様をお迎えしたことはありますが、今回のように大勢の、しかも海外からのお客様が来園されるのは初めての経験で不安もありました。しかし、めったにない事ですし、せっかく来て頂くのだから日本の幼児教育を実際に見て頂くと共に、子ども達と一緒に幼稚園らしい歓迎が出来るよう計画を立てました。

当日、園長先生方の幼稚園滞在は約1時間半と短いものでしたが、まず鎮西学院幼稚園で、子ども達にとって大切としている自由遊び（空き箱や廃材を使っての制作やイーゼルを使ってのお絵描き）や楽器遊び、ゲームをしてのびのびと表現を楽しむ様子を見て頂きました。

次に全園児ホールに集まり、歓迎セレモニーを行い、前々から全園児で練習した「ニーメン・ハオ（こんにちは）」のご挨拶の後、歓迎の言葉を言い、学年ごとに歌やダンスを披露しました。年中組はわらべうた"げんこつ山のたぬきさん"を歌いながら、中国の先生方と触れ合いました。子ども達は少し緊張した様子でしたが、先生方は終始笑顔で、子ども達の歓迎に大変喜んで下さいました。

その後、今年8月に入園された中国人の保護者とミニ懇談会を行いました。先生方は日本の幼児教育について熱心に質問されあっという間に時間が過ぎました。

今回の中国の園長先生方の訪問は、私達教職員にとって大変良い経験となりました。また、先生方の温かいまなざしや教育熱心な様子から、子ども達を思う気持ちは世界共通なんだと感じることが出来ました。

小さな子ども達にとっても、自分たちの住む日本だけでなく、中国という隣りの国に興味関心を持つと共に、世界に目を向けようとする良い機会になった事と思います。

これを機に学院やウエスレヤン大学の方々のお力をお借りし、今後も幼稚園で小さな国際交流が出来れば嬉しく思います。

最後に今回の中国の園長先生方をお迎えするにあたり、沢山の方々にご協力頂きました事に感謝いたします。

ひかりっこ
わくわくチャレンジDAYを終えて

イベント企画委員会　そら組代表　杉下喜代子

今年のイベント企画委員会は4月に各クラスから選出された10名の保護者と昨年のイベント企画委員長を相談役に迎え、計11名でスタートしました。

最近は幼稚園でもお勤めをしているお母さんが以前に比べ多くなっているようです。他の私立幼稚園では保護者手作りの『お祭り』や『バザー』がなくなっているという話も耳にします。そんな中、鎮西学院幼稚園においては、ひかりの会主催の『イベント』を今年も開催するにあたり、保護者や委員の大きな負担になることなく、かつ、何よりも子ども達の楽しみになるような企画にしたいという委員全員の目標を掲げ企画立案に入りました。

目標を形にしようと、まず、委員と保護者負担削減のために恒例となっている企画を辞めました。また、収益重視の『バザー』形式を廃止し、保護者有志によるフリマを導入したり、無料で遊べる企画を多く取り入れました。一方で継続した企画もあります。イベントまでに2度、自由参加で保護者の方と一緒にイベントで販売するおもちゃを作る『手作り会』を開催しました。クラスごとに分かれておもちゃを作りながらも皆さんのお口は活発に動いて、お子さんのお弁当のこと、日々の子育ての悩みなどをそれぞれにお話したりと、日頃園バス利用でなかなか他の保護者の方との関わりを持てない方にも繋がりを持つ楽しい時間と捉えて頂けたのではないかと思います。

さて、イベント当日は前日までの晴天はどこへやら、台風の影響による雨模様となりました。園庭での運動遊びを多く取り入れた企画としていたため、多少のがっかり感は拭えませんでしたが、雨でも無事開催できたことに感謝でした。オープン前からお目当てのコーナーを窓越しに物色、オープン後は品物を前にしばしお財布とにらめっこ、怖いけれどなんだかワクワクお化け屋敷、お父さんに負けじとチャレンジするちびっこフラミンゴ（片足バランス）、ひと回りしたらおにぎりとドーナツでちょっと一息なんて風景があちこちで見られました。他にも大人と一緒にお仕事する年長さん（小さな赤ちゃんだったのに♪）、卒園生の顔もちらほら、参加した皆さんが思い思いにこのイベントを楽しんで頂けたようで、たくさんの笑顔に溢れ、委員一同の喜びとなりました。

最後に、イベントを行うにあたり、ご協力頂きました鎮西学院内外、園の先生方、保護者を含め関わって下さいました皆様方にお礼を申し上げたいと思います。次年度以降もイベント形態を模索すると思いますが、どうぞ引き続きご理解とご協力の程、宜しくお願い致します。

ス紹介

ひかり組
（年少児）
担任／江頭　弘美

年が明け、いよいよ3学期がスタートしました。小さかった子ども達は1学期、2学期と様々な経験をし、随分と逞しくなったように感じます。心身共に成長し、自信をつけた子ども達は、来年度への期待を少しずつ高めながら毎日を送っています。

これまでを振り返ってみると、本当に色々な事がありましたが、そこにはいつも神様のお守りとたくさんの方のお支えがあったことを強く感じています。

新しい環境に期待と不安でいっぱいだった1学期。登園時にお母さんからなかなか離れられず、寂しくなると急に涙が出てしまう子もいましたが、少しずつ安心して過ごせるようになりました。また、集団生活を送る中で色々な個性を持った友達がいることを知り、心を通わせたり、時にはけんかをしながら、日々の体験を通して人間関係を学んでいきました。

行事が盛り沢山だった2学期。子ども達は運動会や芋掘り、イベントにクリスマスにとたくさんのよい経験をしました。運動会では頑張る気持ちと協力する心が育ちました。クリスマス祝会での舞台発表では、表現する楽しさや喜び、緊張感をそれぞれが味わい、印象深いものになったのではないかと思います。

そして3学期。残りわずかですが、まだまだ子ども達の成長が楽しみです。これからも身近な人への感謝の気持ちを大切にしながら、笑顔で園生活を楽しんでいってほしいと思います。

ほし組
（年少児）
担任／宮前　寧々

時間が過ぎるのは早く、2学期を終えて1年の集大成となる3学期がスタートしました。入園した当初は、初めて出会う友達と仲良くできるのかなという期待や不安な気持ちだった子ども達も今では、「おはよう」「一緒に遊ぼう」「お弁当食べよう」「またね」と言えるようになりました。遊び方は1人遊びから小集団遊びに変わり女の子、男の子と混じり合って遊んでいます。今のほし組の子ども達は戦いごっこ（仮面ライダー対プリキュア）がブームで、笑いが絶えず、楽しく遊んでいる様子が見られます。時にはぶつかり合って喧嘩し、泣いたりもする事もありますが、「ごめんね」「いいよ」という魔法の言葉で仲直りができる子ども達です。これからも友達と遊ぶ中で相手の気持ちを考え、思いやりを持ち、一人ひとりが友達を大切にできる子ども達になって欲しいなと思います。

さて、2学期は行事が沢山ある時期でした。その中でも子ども達が最初に経験した運動会。暑い中での練習も負けずに頑張りました。行進から始まり、かけっこでは腕を一生懸命振りながらゴールまで走る姿が見られました。そして、1番大好きな「ペンギンサンバ」の踊りでは、ペンギンになりきり小さな体を沢山動かし、大きく表現している子ども達はとても可愛らしかったです。沢山の人がいる前で踊ったり走ったりする事は子ども達にとっても自信に繋がったと思います。

2学期最後のクリスマス祝会で、ほし組は「大きなかぶ」のリズム劇をしました。セリフや歌を覚える事から始まり何回も練習に励んできました。自分の決まった役を友達と一緒に表現する嬉しさを知り、子ども達自身が楽しんでいる様子が見られました。また、みんなで1つの事をやり遂げるという事も年少の子ども達にとっては難しいことではありますが、友達が困っていると優しく教えてあげたり、小さい友達の手を優しく引っ張ってあげたりと子ども同士で助け合う姿が沢山見られ、少しずつお兄さん、お姉さんらしくなってきたなと感じました。

ほし組での生活も残りわずかとなりますが、子ども達と存分に楽しみながら毎日を過ごしていきたいなと思います。

神さま、子ども達が笑顔で健康に過ごせますようにお守りください。

クラ

あっという間にやってきた3学期。にじ組一人一人が毎日のびのびと園生活を送り、進級当初は、まだまだ年少組の雰囲気が残っていましたが、今ではしっかり自己主張ができたり、友だちを思いやることができたりと、頼もしくなったなと成長を感じる毎日です。

先月行われたクリスマス礼拝・祝会で、にじ組は「どんないろがすき♪」のリズム劇に挑戦しました。赤・黄・青・緑のクレヨンに扮し、それぞれの子ども達が演じ、役決めや劇中の振り付けなど、子ども達が主体となって行いました。一人ずつセリフもあり、遊びの中で練習する姿も見られました。毎日の練習を通し、少しずつ子ども達の意欲も高まり、当日は緊張しながらも大勢のお客さんの前で堂々と演じる姿に感動しました。1つのものを友だちと協力して作り上げていく楽しさや難しさ、出来なかったことが出来るようになった喜びなど様々な経験をし、達成感や充実感を味わうことで子ども達も大きく成長していきます。2学期に経験した運動会やリズム劇など、子ども達の成長に欠かせない園行事は、クラス全体の成長にも繋がることを実感しました。

〝みんな大好き〟を合言葉に1年間過ごしてきた子ども達は、日々のなにげない友だちとの関わりの中で友だちの良いところを認め、受け入れることができました。毎日笑顔いっぱいで賑やかに遊ぶ姿を見ていると、みんな大好き♡という想いが伝わってきます。

にじ組での生活も残りわずかとなりました。1日1日を大切に、子ども達と一緒に毎日楽しく過ごしていきたいと思います。そして、子ども達がもっともっとみんな大好きになり、たくさんの思い出を作って、年長組へと進級してほしいと思います。

にじ組
（年中児）

担任／林田　典子

憧れていた、そら組の生活もあっという間に過ぎ、残すはあと3学期だけになりました。

1学期までは、まだまだ自分のことで精一杯で、自分のことだけしか考えきれないところもありましたが、日々の生活や様々な行事を通して、たくましく、頼もしく成長しました。特に10月の運動会では、毎日暑い中、太鼓や組み体操、ファイナルリレーなどの練習に一生懸命に取り組み、当日は練習以上に立派にやり遂げ、見ている方々に大きな感動を与えてくれました。

また、先日行われたクリスマス礼拝では、ページェント（降誕劇）を演じ、保護者の方々や高校生、沢山のお客さまにクリスマスの本当の意味を伝える大切な役割も、立派に果たしてくれました。

2学期は力を合わせて取り組む楽しさ、最後までやり遂げた達成感や充実感を味わうことができ、また、クラスの団結力が増し、友だちのことを思いやる心が育ってきたように思います。

園生活も残り3ヶ月となり、淋しさも感じていますが、子ども達には今しかできないことを思いっきり楽しみ、思い出を沢山作り、自信と期待を持って小学校に進学して欲しいと思います。

そら組
（年長児）

担任／宮本あゆみ

「高等学校は今」

高等学校副校長
山口 茂久

教育改革への取り組み

2017年度より普通科に公務員コース(定員20名)を新設しました。これまで講座制授業や夕方および夜間の補習を行ってきましたが、クラスを設置することで、より専門性の高い授業をカリキュラムに組み込み、これまで以上に難関公務員への進路実現を図ります。(2017年度実績を別記)

新たな教育改革の一環として、2018年度よりグローバルイングリッシュコースを普通科の中に設置します。1881年、カブリー英和学校として歩み始めた鎮西学院は、「品性高潔なるクリスチャンマインドを育み、国際舞台で活躍できる人材の育成」をめざした教育活動を行ってきました。新しくスタートするグローバルイングリッシュコースは、インターネットを利用したオンライン英会話、海外姉妹校(カナダ、中国)への短期留学、上海バイリンガル高校との姉妹校連携協定の締結に伴う相互交流、長崎ウエスレヤン大学(同学校法人)留学生との交流など、様々な体験活動を通して、「使える英語」を学んでゆきます。併せて、キリスト教学校教育同盟校や英語教育を重視した国公立および私立大学への進学を目指します。さらに、国際舞台で活躍できる人材を海外から受け入れるため留学生プログラムをスタートしました。今年度は、アメリカ、中国、韓国、ベトナム、スリランカの留学生が在籍し、生徒が学校生活の中で幅広い国際的な感覚や見識を広げることが可能になりました。

施設・設備の環境整備の一環として野球グラウンドの拡張工事を進めています。2018年5月完成予定のグラウンドは、両翼90mとセンター110mを確保しました。最終的には屋内練習場も完備する計画です。この拡張工事により対外試合が可能な練習環境が整います。

学校行事を終えて

始業式を終えて5日後の9月2日、ハレルヤ祭(文化祭)を実施しました。今年のテーマを「志輝」として、生徒一人ひとりが輝けるよう生徒会執行部、総務委員、ハレルヤ祭実行委員会が中心となり企画を練り運営を行いました。文化部による講堂発表、クラス展示や文化部展示は限られた時間の中で活動成果が十分に表現されたものでした。何より浴衣姿で登場した二人のMCが会場を大きく盛り上げました。さらに、今年度の屋外ステージの会場変更とステージにトラックステーションを用いた企画は、訪れた中高生や一般客の方にとても印象深いものでした。

一息つく間もなく、2学期最大の学校イベントである体育祭を9月9日に実施しました。昨年は台風接近の影響で日程変更を余儀なくされましたが、今年は残暑も和らぎ天候にも恵まれました。各競技の高校生らしい躍動感のあるパフォーマンスに会場は、訪れた保護者の方の声援や大きな笑い声に包まれました。

今では諫早市の風物詩として定着したクリスマスツリーの点灯式が11月22日に行われました。幼稚園児や高等学校聖歌隊の歌声が響き、高さ約15メートルのヒマラヤスギの梢の上にはトップスターが輝き、約12000個の電飾が点灯されました。12月25日までの約1か月間午後8時まで開放します。例年多くの家族連れが訪れクリスマスを待ち望みます。また、今年で16回目となる鎮西学院主催諫早市民クリスマスコンサートも12月10日に諫早文化会館で開催されました。

部活動実績

県高校女子サッカー選手権において本校女子サッカー部が11連覇を果たしました。今夏の県高校総体7連覇の実力を発揮し盤石の試合運びでの優勝でした。九州大会では、残念ながら全国の切符を懸けた試合でPK戦の末敗れ、全国大会出場には一歩およびませんでしたが、再び全国上位を見据えた新メンバーがスタートを切りました。

11月2日に開催された第69回県高校駅伝競走大会において、本校男子陸上部が昨年に引き続き優勝し連覇を果たしました。昨年の優勝メンバーが大きく入れ替わったものの、7区間中6区間で区間1位を記録するなど勝負強さを発揮しました。再び都大路での活躍が期待されます。

男子バレー部が今年も春高バレー決勝戦に臨みました。惜しくも準優勝に終わりましたが、最後まで勝負を諦めないひたむきな姿勢は、訪れた多くの観衆に感動を与えるものでした。なお男子バレー部は全国私立高等学校バレーボール大会（さくらVOLLEY　3月21日から東京町田市）へ九州代表としての出場が決定しています。

このほかにも、県高校新人大会において、卓球部男女の準優勝や男子個人の優勝、体操部男子の個人総合優勝など活躍が目立ちました。最近力をつけてきた女子バスケット部が中地区新人大会で優勝するなど、めざましい躍進を続けています。

文化部においても、吹奏楽部の県吹奏楽コンクールおよびマーチングコンテスト、さらにアンサンブルコンテストトランペット六重奏でいずれも金賞受賞と九州大会への出場を獲得しました。県総合文化祭における演劇部、文芸新聞部、写真部、琴同好会などが文化部門での表彰を受けました。

進路実績

12月8日現在で、国公立・準大学合格者は、長崎大学2名、群馬大学1名、長崎県立大学3名、北九州市立大学1名、水産大学校1名、防衛大学校（一次）5名の合計13名が合格。また、私立大学は、青山学院大学、関西学院大学、明治学院大学、法政大学、立命館アジア太平洋大学、西南学院大学6名、福岡大学4名、長崎ウエスレヤン大学31名などに合格しています。

公務員については、国家一般職（技術職）、長崎市役所、大村市役所、海上保安学校学生、自衛隊一般曹候補生5名、自衛官候補生11名が合格しました。

なお、一般企業就職については、大島造船所、ハウステンボス、（株）ウラノなど20名が採用内定を頂いています。

「長崎ウエスレヤン大学は、今」

学長　佐藤　快信

新たな年を迎え、さらなる飛躍の年としてこの1年間を過ごしていきたいと考えています。これからも、本学の教育・研究に対し、ご理解・ご支援のほどをお願い申し上げます。

4月以降の動きとしては、「大学力」の向上のための経常費・施設費・設備費を一体として重点的に支援される文部科学省平成29年度私立大学改革総合支援事業に、本学はタイプ1「教育の質的転換」、タイプ2「地域発展」、タイプ4「グローバル化」の3件で申請しすべて採択され、私立大学経常費補助金等が増額されて教育環境がより充実したものとなります。また、「成長分野における中核的専門的人材養成の戦略的推進事業」（観光分野）が今年度も文部科学省から委託され、研究調査も5年目となり最終年度を迎えました。

学生たちのフィールドワークの場の確保やインターンシップの研修機会などを地域との連携を図りながら進めています。今年度は、AU+の協定を結びマレーシアのベルジャヤ大学企画の海外インターンシップに6名の学生が行きました。また、小学生を対象とした地域主催の通学合宿にボランティア参加した学生に対して感謝状やお礼の手紙も頂きました。ウエスレヤン・ジャズ・アンサンブルは地域からの要請に応え数多くの音楽活動を盛んにおこなうなど、学生を中心として教職員も地域との関わりを深めています。

学園祭でもある＄2祭は、保護者会をはじめ地域の福祉団体などの参加もあり、例年になく盛況に終わりました。併せて卒業生を対象とした5回目を迎える「ホームカミングデー」にも短期大学・大学のOB・OGが集まってくれました。夕方からの懇親会には、OB・OGと教職員との楽しい交流の時間を持つことができました。

また、お気に入りの本の魅力を訴える知的書評合戦「ビブリオバトル」では、昨年に続き外国語学科2年の和田大樹君が長崎大会で優勝し、首都決戦に出場しました。アミュプラザの本屋さんや県教育委員会研修でのジブリオバトル、学生サポーターズの「ぶっく倶楽部」が御舘山小学校での読み語りなど教育活動にも活動を広げています。

こうした教育・研究をさらに発展させ、地域から信頼される、地域になくてはならない大学づくりに邁進いたしますので、どうぞ、ご支援頂きますよう、お願い申し上げます。

2018年卒業生進路状況

2018年１月15日時点　キャリア支援係

■卒業予定者**82**名（就職希望者58名　就職希望者以外24名）

■就職希望者内定率**70.7**%（内定者41名／就職希望者58名）

■学科別内定率　社会福祉学科52.0%　経済政策学科90.0%　外国語学科76.9%

■就職希望者以外**24**名（進学・留学11名　帰国・その他13名）

1 本学の就職内定率70.7%

前年同期比16.8ポイント減（2017年卒業生４月末現在87.5%）

文科省調査12月１日現在 全国112大学等抽出85.0%（前年同期比4.6ポイント増）

長崎労働局統計10月末現在 長崎県内８大学64.9%（前年同期比3.1ポイント減）

2 依然県内就職が多いが変化も

本学内定率70.7%（１月15日時点）は文科省調査（2017年12月１日時点）85.0%に比較すると14.3ポイント下回り、県内大学（10月末）64.9%（県内51.3%県外75.7%）との比較では5.8ポイント上回る。県内大学の統計で県内就職と県外就職に24.4ポイントの開きがあるように従来より県外就職が好調である。本学への求人件数も県内求人は全体の４割しかないが本学学生は県内就職希望が多い。上記本学内定者41名のうち県外勤務となるのは16名で、昨年来県外就職は増えてはいるものの、依然多数が県内就職希望のため苦戦し、結果として県外就職を選択する傾向がみられるようになった。

3 早期内定者と遅れて内定の「２極化」

早期活動開始の学生は採用試験解禁の６月までに早々と内定獲得した者が10名いる一方で、１月になっても内定できていない学生は17名、うち社会福祉学科生が12名を占める。福祉業界の採用活動自体が遅く始まることが原因であるが全体の２極化をもたらしている。

4 内定先の変化

今期の内定先の内容は県外では青山商事（広島紳士服）や熊本総合病院（社会福祉士）、県内では親和銀行など比較的難易度の高い先となっている。いずれも早期から着手し、また遠隔地であっても臆せず採用試験に挑戦する学生の好事例である。

以上

マイナビ　留学生説明会

資生堂　メイクアップセミナー

個人面談

リクナビ　個人面接練習